

「ダ、の新吉よ。

詩を作る事は止せ。

太陽を掴む事に努力せよ」

と書いて住所と名前が書いてあつた。

新吉はのけぞり返つて、首筋が痛むので爆發しなければならぬと思つてゐた。

會場へ戻つてみた。

尾瀬敬止が濟んで新居格が演壇に立つてゐた。

話し聲が低く、美音ではない。

けれども彼の話しはまじめで、外國の新作家の劇の紹介か何かだつた。

アガンボジョー。

新吉は唸つた。

新居はジロリと新吉を睨むで話をすゝめた。

加藤一夫が最後に出た。